

リニアと地域内アクセス整備による経済効果

山梨大学 佐々木研究室 武藤研究室
山梨経済同友会

目的

- リニア開業が国内の生活圏のGRP(域内総生産)に与える影響を分析
- 国中生活圏では甲府駅前までのアクセス改善がGRPに与える影響を評価

手法

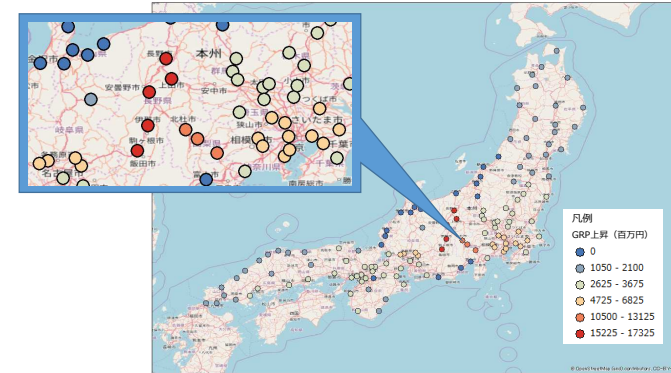
- 本州の全生活圏のGRPと現在のアクセシビリティの関係を数学的にモデル化
 - ※アクセシビリティ: 他地域への移動にかかる所要時間と費用を統合したもの(相手先の人口を重みつけたもの)
- 改善したアクセシビリティの予測値を用いてGRPの変化を予測

具体的な条件

- 一般化費用
 - 国土交通省NITAS(総合交通分析システム)を用いて予測
- モデル構造
 - 一次、二次、三次産業別にGRPとアクセシビリティの関係をモデル化し、リニアが全国の経済に与える影響として国土交通省が試算した値をコントロールトータルとする
- アクセスの改善条件
 - 改善前
 - 甲府駅⇨リニア新駅
 - 所要時間平均35分
 - 改善後
 - 甲府駅⇨リニア新駅
 - 所要時間平均15分
- アクセス交通をより高度なものとするにより20分の改善を想定

リニア開通後のGRPの変化予測

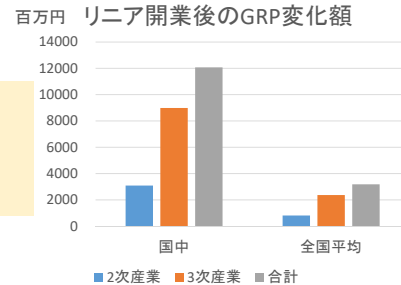
- 甲府駅⇨リニア新駅間35分(既存のバスを想定)
 - 国中生活圏のGRPを約**120億円/年**押し上げると予測
- 甲府駅⇨リニア新駅間15分(速達性の高いアクセスを想定)
 - 国中生活圏のGRPを約**21億円/年**押し上げると予測(山梨県全体では約58億の上昇)



リニア整備による生活圏への経済効果

国中整備前後のGRP比較

- リニア沿線沿いである国中生活圏は、全国的にも経済効果大きい。



	2次産業GRPの変化	3次産業GRPの変化	合計GRPの変化
リニア整備のみ(国中)	3,089	8,986	12,075
リニア整備のみ(全国平均)	814	2,368	3,182
リニア+都市内交通(国中)	3,626	10,549	14,175
都市内交通の整備効果	537	1,563	2,100

単位: (百万円)

- 都市内交通整備による効果を産業別に分類
 - 第2次産業が約**5億円**、第3次産業が約**1.5億円**の上昇

まとめ

- リニア開通後の交通環境の変化を想定して、将来の交通環境を表現することで、**リニア開通後のGRPの予測**を行った
- 国中生活圏のGRPは、リニアのみの整備の場合、**約120億円**の上昇と試算される
- 高速な都市内交通を整備することで、さらに**約21億円**上昇すると試算された
- 高速な都市内交通の整備は、リニア開業による経済効果を約**18%**押し上げることが期待される

参考

- 山梨県の試算した経済効果: 総生産額が約**146億円**増加